

■特集

平成二十八年十月二十九日

当山二世中興

大圓武志大和尚十三回忌

善光寺二世中興大圓武志大和尚の十三回忌法要が平成二十八年十月二十九日午後三時から、釈迦殿で営まれました。

法要後の客殿でのお齋の席で、

黒田博志住職は「師匠が亡くなって早いもので十二年。無事十三回忌を迎えることができました。皆様のおかげとしみじみ感じています。思えば生前中はほとんど師匠の言葉、行いを素直に受け入れることが出来ませんでした。今は反省の日々です。先代は優しい父であり厳しい師匠でした。真面目にやれよ、とよく言われました。これからの日々は真面目に、素直に、皆





様方の指導を受けて精進したい」と謝辞を述べました。

大乘寺の東老師は「黒田老師は三つの理念を生涯の目標とし、実践された。第一は『宗祖を通して釈尊に還る』とおっしゃった。こんなことを言った人は道元禪師、瑩山禪師以外に誰もいない。これを現実社会にいかにも実践するかというので昭和五十九年に海外留学僧育英会を創設された。私はその最初のメンバーです。善光寺の育英生は各国各界各方面で活躍しております。

もう一つは京都の清水寺境内に瑩山禪師顕彰碑を建てたこと。私の勧めに応じて倫子夫人と二人で建てられた。最後に平成十三年、道元禪師七百五十回忌に際し奈良康明先生（駒澤大学元総長・名誉教授、永平寺西堂）と私の名前で『道元の二十一世紀』という本を出していただいた」と具体的な実績を挙げて大圓武志大和尚

の遺徳を讃えました。

熊谷豊太郎筆頭総代による御礼の後、詣塔諷經の導師をお務め頂いた正翁寺篁素明老師による献杯。隣寺でもあり法要の後席で一緒になる事も多く黒田老師との盃を酌み交した事を懐かしくお話し下さいました。中でも黒田老師は心配りの人で周りに酒を勧めることがとても上手で困ったとの話には、会場から老師を思い出しているの笑いも起こりました。法語もそれに因んだ言葉を選ばれたとの事。お越し頂いた皆様に黒田老師が呵々と笑いながら話しかけているような和やかな雰囲気のお斎の席でした。





## 檀信徒六百名と共に

### 十三回忌予修法要

平成二十八年九月二十日

導師 成願寺住職 山口晴通老師

孟蘭盆施食会の際に、十月に行う先代様の十三回忌法要について報告をしたところ檀信徒の方々より「先代様には大変お世話になりました。私達も出来たらいいから先代様にご焼香させてもらいたいなあ」との声を多くお寄せ頂きました。

ありがたい言葉に秋彼岸に併せて、檀信徒皆様と共に先代様の「十三回忌予修法要」を厳修致しました。成願寺山口晴通老師に導師をお務め頂き、午前、午後合わせて六百名を越す方々と一緒に法要を営みました。

常に檀信徒の皆様と共に在った先代様を偲ぶ一座となりました。